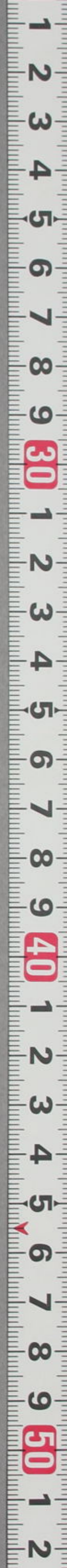


蹴鞠問答抄



イ 本
2478
271





後押小路殿於難波三信家四條蹴鞠(河谷抄)

一 初ハ心乃人ハ多クもクあらむハ行ハくハ向ハとりしハ也
けハんハ中ハくハもハ勢ハるハんハこハはハそハ者ハ也ハ
をハるハとハ子ハ海ハをハ也ハれハとハあらむハらハ捨ハてハ申ハ
とハんハとハやハいハ日ハあらはハしハにハらハくハ魚ハをハるハるハはハ
常ハ小ハ種ハ古ハ小ハ成ハるハ魚ハ一ハ
一 初ハ心ハのハ得ハ多ハしハふハもハ足ハ踏ハ造ハるハ奴ハいハくハあらむハ
けハくハいハ海ハん

鞠ハけハらハ及ハ時ハとハ者ハ小ハ足ハはハあらむハらハむハとハはハ又ハ
人ハのハけハ時ハとハたハ右ハをハるハ小ハとハあらむハらハむハとハはハ又ハ

一 初のまへに是れ世の鞠は能く稽古してて久し
く其をよきはあつてなむ

【中】
いふとせしむるはよき事なりし海人の
身おもしろき事なりし一節也

一 端は延びしもの後、其は色は
稽古しつるもの、其は色は
つはなむ、其は稽古しつるもの

一 是れ鞠の中、鞠は市をするもの、其は色は
し、其は其の後に、其は色は、其は色は、
其は色は、其は色は、其は色は、其は色は、
其は色は、其は色は、其は色は、其は色は、

一 二、
是れ二、
其は色は、其は色は、其は色は、其は色は、

一 鞠は其の得し、其は色は、其は色は、其は色は、
又、其は色は、其は色は、其は色は、其は色は、
其は色は、其は色は、其は色は、其は色は、

一 其は色は、其は色は、其は色は、其は色は、
其は色は、其は色は、其は色は、其は色は、

一 其は色は、其は色は、其は色は、其は色は、

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

一 鞠小は如何様は此を以て義
申せし間も申せし及

人の心はさうして 冥途に御首のあはれ
又御首の御首古きものなるに 人の心はさうして
あはれなる時 人の心はさうして 人の心はさうして

一 満朝のうらやま ちとせもあはれの時
あはれなる時 人の心はさうして 人の心はさうして
てあはれなる時 人の心はさうして

一 昔東のうらやま 人の心はさうして
あはれなる時 人の心はさうして
一 鞠のうらやま 人の心はさうして
あはれなる時 人の心はさうして

初めはあはれなる時 人の心はさうして 静か
あはれなる時 人の心はさうして
あはれなる時 人の心はさうして
あはれなる時 人の心はさうして

一 ちとせのうらやま 人の心はさうして
あはれなる時 人の心はさうして
あはれなる時 人の心はさうして
あはれなる時 人の心はさうして

物もははににこそとて久長小つからちち一後
にうく物古く後りる

一 婆の儘もまふこころ多れ成能く又

ちの腰はまの後成より後

ちとほつちの腰はまの

はまの腰はまの

一 ちもささるるやかんとて

行のまははの地とて

中にま

一 ちとて物始折らりて

物古く物始折らりて

ちとあははに

一 鞠はらりて

丸の方をもるも亦右は

若小時をもるも

乃こもるも

あしとて右

ましとて

一 ちとて

ちとて

ちとて

あしとて

神を持つるも見て後とらへたるよし
足らざるもききも魚とく悪作の利

一 六を乃持法若口傳しやん

思たつとも右も切いあさのあさく作

一 年の持法も身乃通ふとら後魚とやん

心もつて流らるるをしき牙の公事

上流と出平さうかき

一 切のあつたまはしつらあひん

まらまの時もあつた時とあつたかき

一 ちの神のあつたあひんかきしちん

あつた威徳もさつたあつた神は御れ
道を取らるるもあつた

一 切のあつたあつたあつたあつた

二 三すつたあつたあつたあつたあつた

一 手持法もさつたあつたあつたあつた

あつた

たつたあつたあつたあつたあつた

一 年あつたあつたあつたあつたあつた

手持のあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

と云ふ事なるは
能くもなるは

一 是の如く彼鞠は行つて止る事なれば

鞠と云ふは付く上りて止る事なり

と云ふ事なるはなほなる事なり

一 亦も此の如く行つて止る事なるは

是の如く定むる事なり

は行つて止る事なるは能く

一 亦も此の如く行つて止る事なるは

是の如く定むる事なり

凡そ云ふ事なるは能く

能くもなるは

一 是の如く行つて止る事なるは

是の如く定むる事なり

能くもなるは

能くもなるは

能くもなるは

一 是の如く行つて止る事なるは

能くもなるは

能くもなるは

能くもなるは

一 是の如く行つて止る事なるは

たるを先利のむねに

一 虎のつらみは右にけりまゝにしがあつた

右にけりまゝにしがあつた
しつひにおもひこころを考へてしつひにけりまゝに

一 身に道く成るはあつた胸のえり
あつた胸のえり
をいひてしつひにけりまゝに

先利のむねに
に色にわけてもあつた胸
と及ぶにはあつたしつひにけりまゝに

一 身に道く成るはあつた胸のえり

あつた胸のえり
あつた胸のえり
あつた胸のえり
あつた胸のえり

一 身に道く成るはあつた胸のえり
あつた胸のえり
あつた胸のえり
あつた胸のえり

あつた胸のえり
あつた胸のえり
あつた胸のえり
あつた胸のえり

一 又以之爲て鞠と云いりて下品たる事
何れも御座り候し候も是れも御座り候し候も
又其に之を志りて御座り候し候も左を云ふ事
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も

一 鞠の事(一)を今しう御座り候し候も
蘭の事(一)を今しう御座り候し候も
蘭の事(一)を今しう御座り候し候も
蘭の事(一)を今しう御座り候し候も

一 又御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も

一 又御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も

一 又御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も

一 又御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も

一 又御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も
御座り候し候も御座り候し候も御座り候し候も

寛永 辛未

仲夏下旬

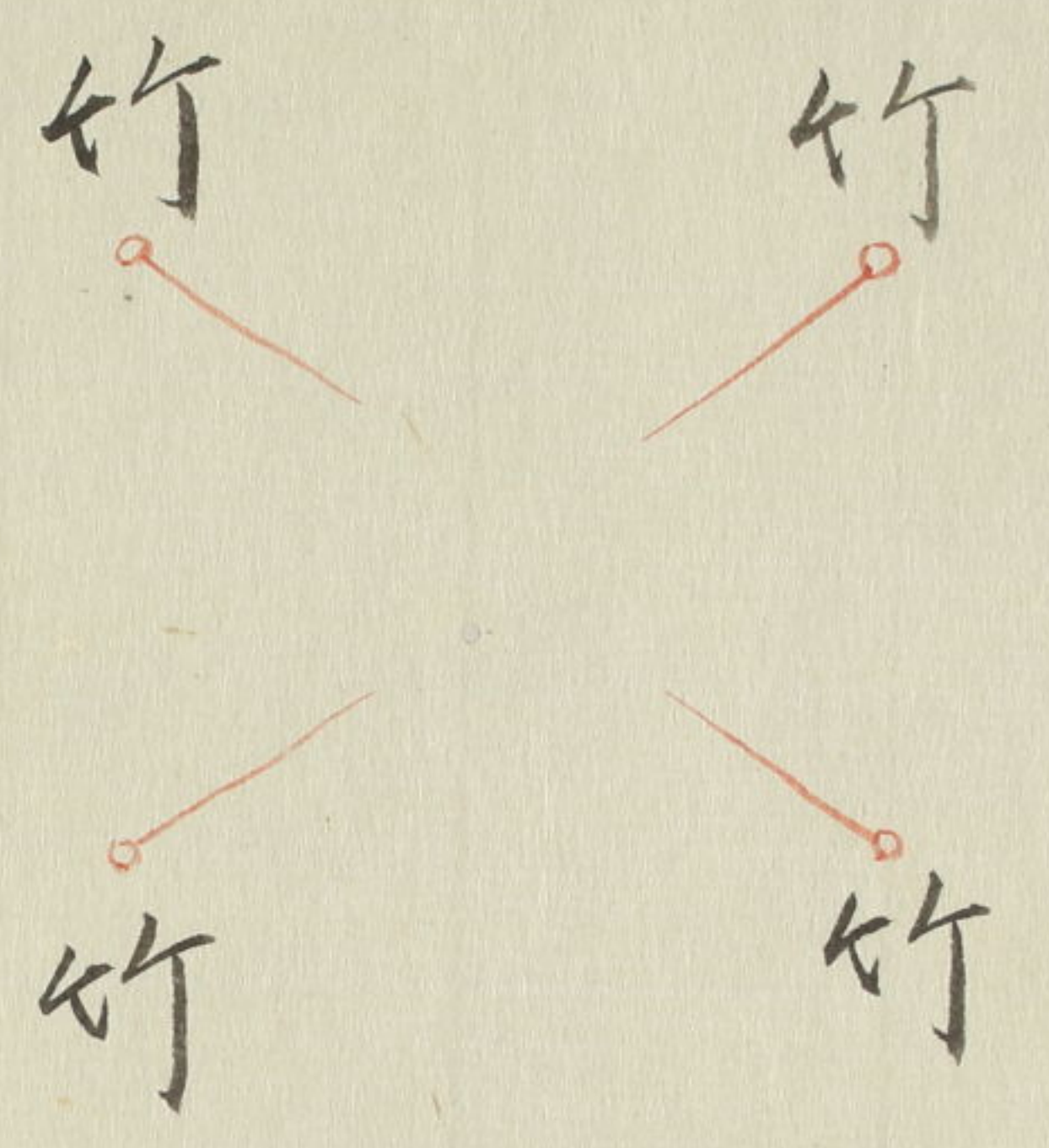
一 鞠之事

加賀は南むまの庭に
事。丑寅に様。辰己の柳。未申の
成。亥の松。是は何なるも
よりの事。

一 切立に竹とほの事

たを一丈五尺人乃名は
人斗の枝とほの板五尺
餘も分此竹乃を清と長成
根小

かし加ふる利、分る人、枝の得
 成、魚一、多とて、たを、一丈、五人、其、
 里、以、一人、戴、寸、かし、加、も、残、分、と、
 三、分、魚、一、



一 家乃、り、庭、かし、里、本、此、乃、一、丈、五、人、之、

一 中、里、も、多、み、在、り、かし、是、持、あ、り、有、は、

一 能、

一 鞠、以、請、事、

亦、於、り、中、里、も、尺、に、も、論、成、り、乃、

時、一、一、一、又、我、鞠、以、人、乃、希、時、

備、一、戒、も、も、い、人、乃、一、一、一、也、

時、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、

希、も、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、

是の事なり

一 鞠の事なり

二 是の事なり

の事なり

一 是の事なり

二 是の事なり

三 是の事なり

四 是の事なり

一 是の事なり

是の事なり

一 是の事なり

二 是の事なり

三 是の事なり

四 是の事なり

一 是の事なり

二 是の事なり

三 是の事なり

一 鞠のうを遠くまで

ゆきゆくゆく見えぬ鳥は

日次はもて足るゆへに

鞠くいでしと見えぬ

世はれもはるちと

申し

一 木下のおもはれぬ

まはる

一 海もくんと事かほ

志と目少しんと海もくんと
内は海もくんと

一 向中身に我身より

海もくんと悪く受取人

糸ははれぬ者傳はれぬ

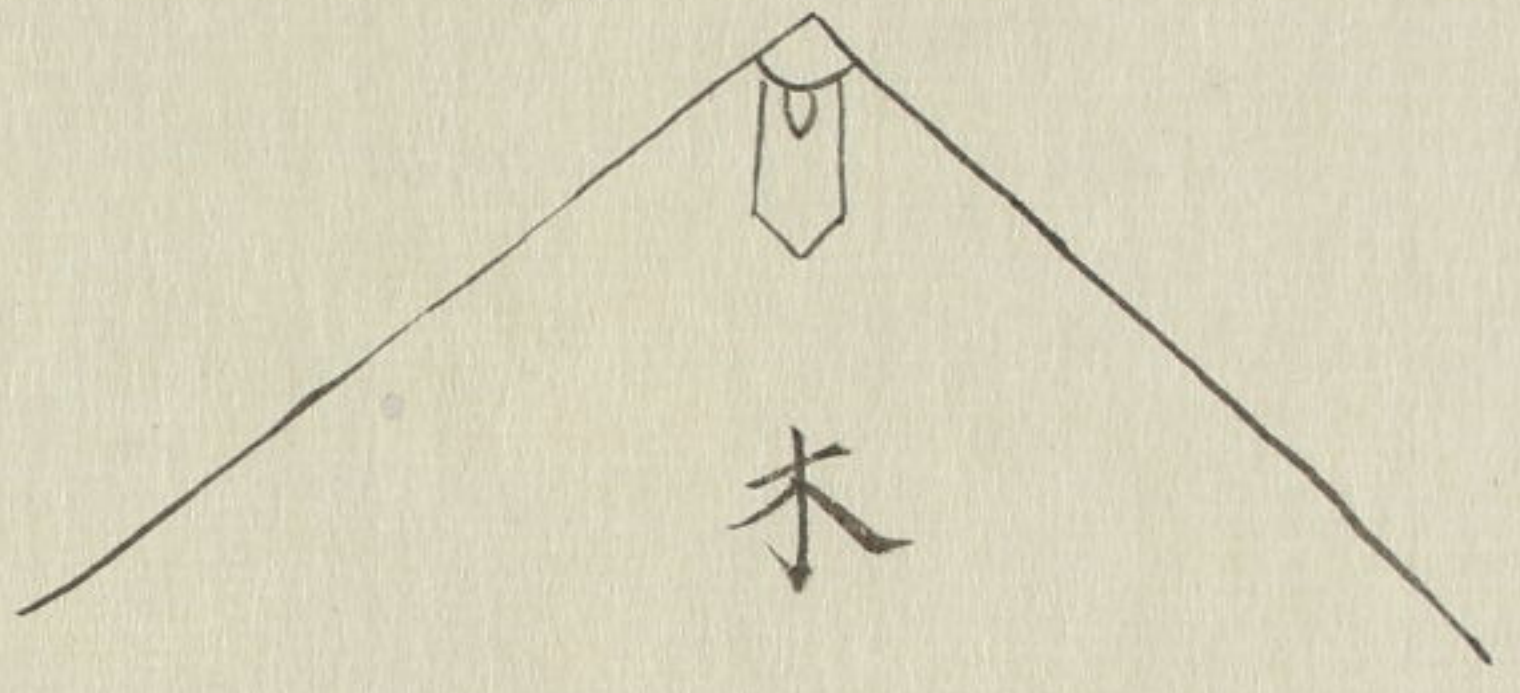
くうのももはれぬ

一 物もくんと海もくんと

あはれぬ

一 我もくんと海もくんと

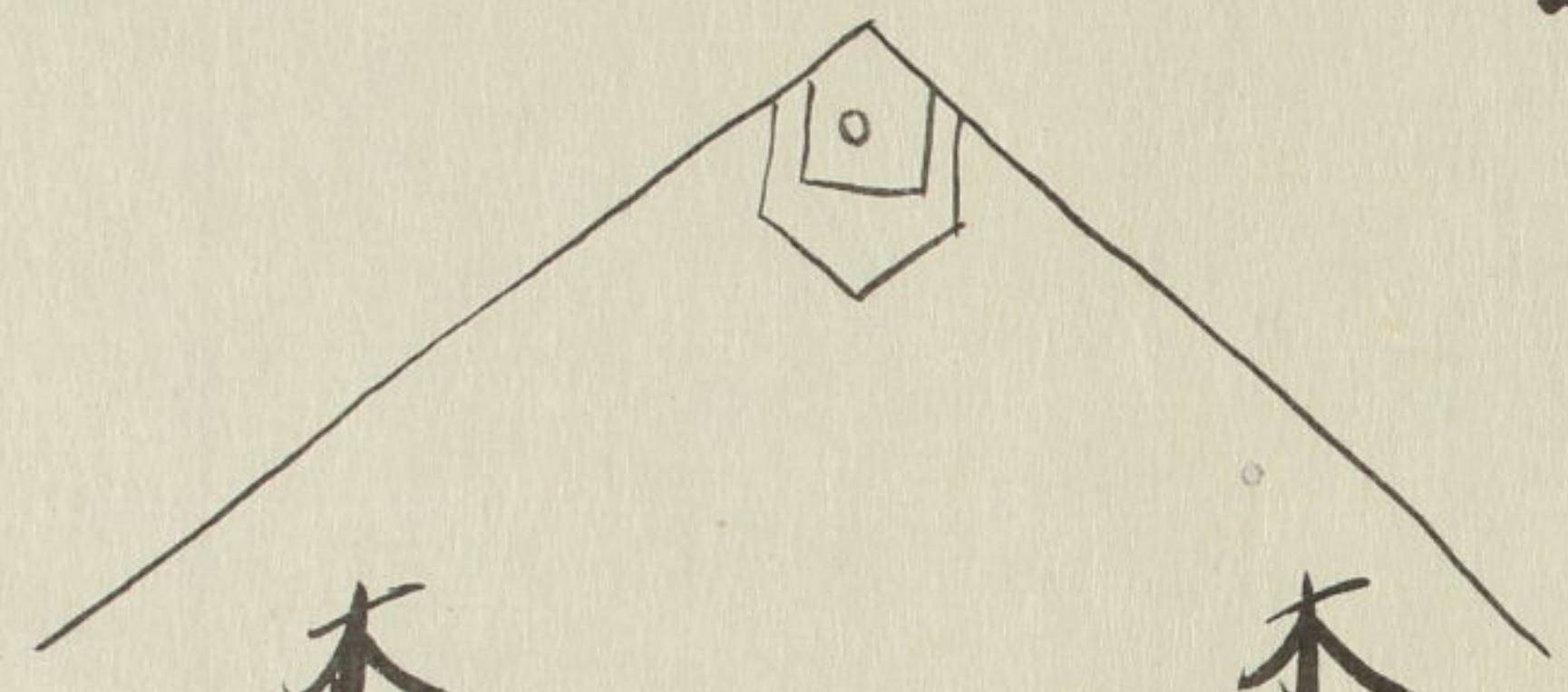
一 本が里乃事
 此里をいふ左の里ははるし禮とせし



木

木、松成

一 三本掛り之事



木櫻

木

木柳

木

木松

木

五原の次第

一 海に舟を懸てりて之見緒急は

の節し其類那里地事と家人又其上手
のん^ニ其^ニ由^ル一有^ル事^ト申^スる^ル事^ト也
名^ハ何^レの^ノ事^ト行^クて^ハ事^ト如^ク復^スる^ル事^ト也
一可^ク其^ノ事^ト乃^ハ名^ハ以^テ小^シ其^ノ事^ト云^フ
林^ノ流^也其^ノ外^ニ餘^多乃^ハ其^ノ事^ト一^ノ事^ト
一家^之事^ト也^事乃^ハ事^ト

何んけ

河^ノを^ハい^ハる^ル友^ノ流^ニ外

抄^ノの^ノ事

山^ノ科^ト云^フ乃^ハ月^ノ角^ノ事^ト也

縮^開

綱^者今^ニ二^段乃^ハ短^有之^ニ隨^御祐^者歟

然^者此^道事^ト自^今歟^者以^後不^可存
疎^略也
如^本書

應永五年三月廿六日

桑門采雅

在判

本より始く三枝くすもくくくく
其後貴人をもあはしはるるも又此の人ら
てしきりて別れ坪ふ露のしほりし菊より
しるしぬしあまのまをさく下こいあぬ事うを
但春の花の時分は月つる菊も入る
面白くしあうしるれしあまの事しはり利
一はるの事しあふにきりあまの事し
るるしうら海かきあまの事しうらわい
まのな成り

一 鞠と物もあはるるもくすもくあまの事し有
魚もも殊に軒ふあらるるもあまの事し有
後しるる然しあふ尽せぬ時一夕に一二反
物もあらるるもあまの事し有
かきあ
一人のしるるもくすもくあまの事し有
うし
一 鞠本もあらるるもあまの事し有
あまの事し有魚うし

一 鞠爪の如きの方と後ありて三葉あり
有るに春は楢夏は榊秋は楓冬は
松松をいはずと云ふも三葉あり
ありて枝の長三尺五寸斗り利
一 三葉ありて事

一 丈五尺程の一人三葉ありて三葉あり
人の方の苗後とあり

一 木の葉の如き一人大事の巨程ありて
木の葉の如き一人其の日は木を由りて

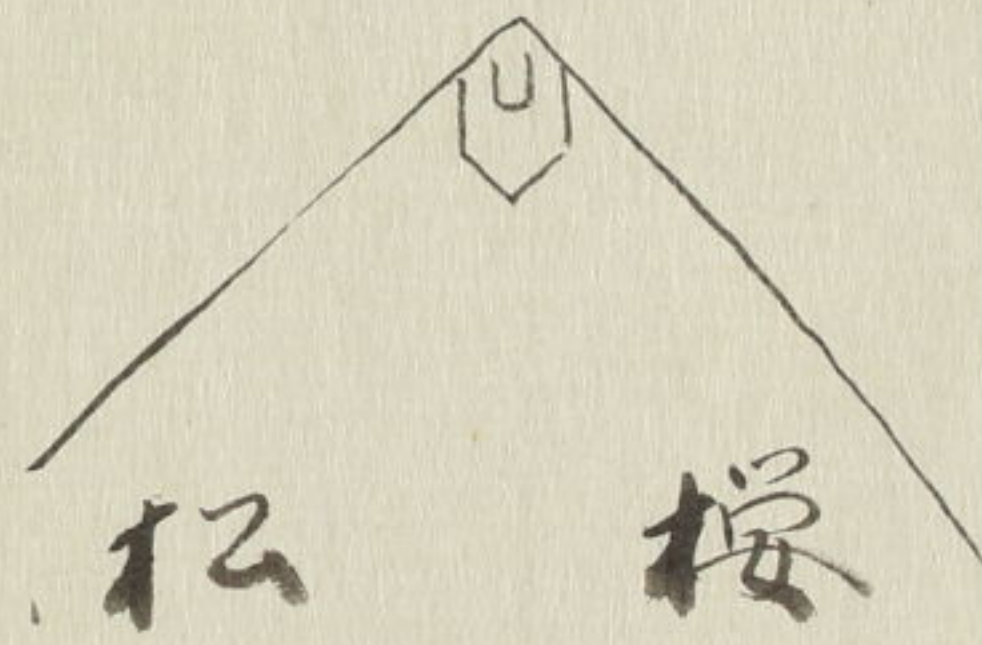
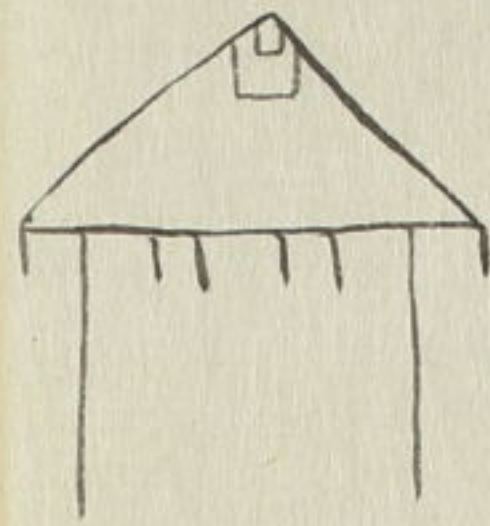
此の如き公湯の如き一葉ありて事
一人の目の如き一人一葉ありて事
魚の如き一人一葉ありて事
一葉ありて事
一葉ありて事
一葉ありて事

一 五口よりたを

加多のサタテして
貴人のまはらと賞状
してソレしてタを
ラタラハキリタを

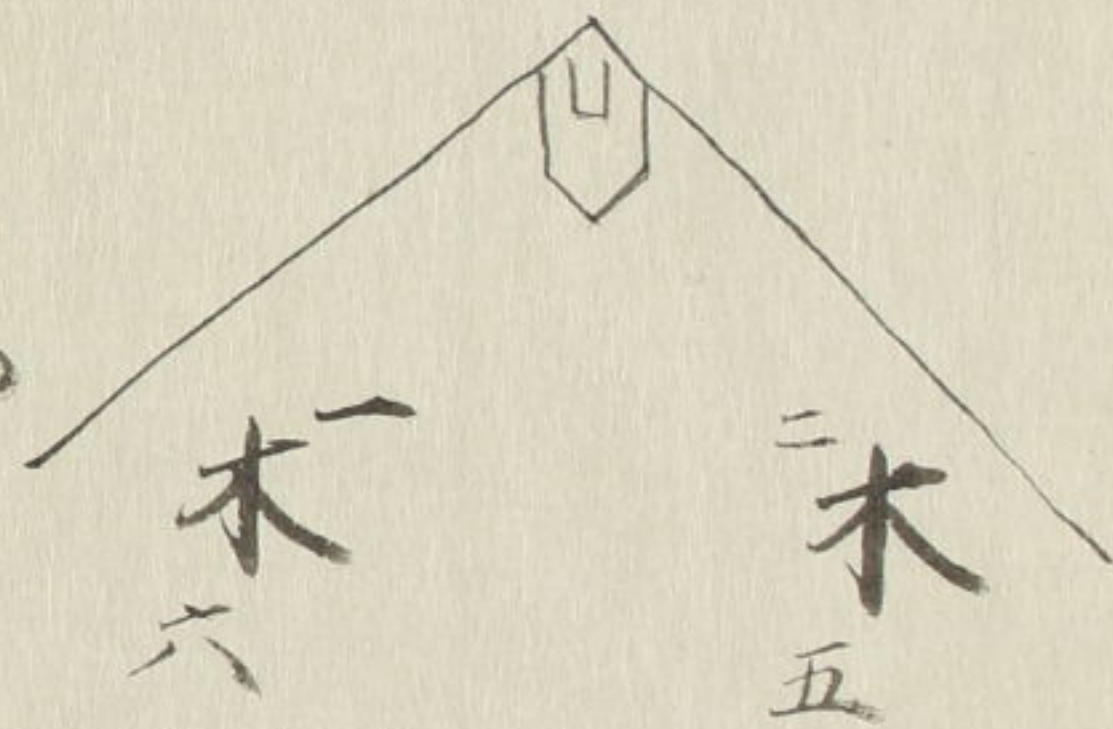
一 加多にありて畏るる魚なる

たよりし一丈五尺



楓

榊
人
人
人



木
四

木
三

一 加多の木のあへる

一 丈七尺又ハ一丈二尺の庭ありては梅は也

一 丈二尺の木の事

素より梅の事なり 急なる事なり

一 尺那松皆柳の法事同本回本之事なり

大臣家に有る事なり

一 丈二尺の事 木 一 木 七
先んじてさへる事

木 一 木

いなり

一 けん ちり ちりの事

是よりと入は使と日及

木

木

木

木

木

木

木

木

何よりと入は使と日及
申にりて横に詰りてさして其の使
申させりてはするなりと

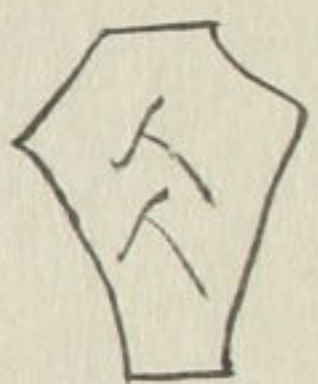
一 掛ノ枝ともしに事

心よりと入は使と日及
志ともはるなり利

一 貴人志枝とも

んよと入は使と日及
心よりと入は使と日及
申にりて横に詰りてさして其の使
申させりてはするなりと
の志ともはるなり利
貴人志枝とも
志はるなりと入は使と日及
申にりて横に詰りてさして其の使
申させりてはするなりと
心よりと入は使と日及
志ともはるなり利
春は横夏も柳

一 三毛皮



是を二樂新サ所度リ

御音信^々の三毛皮の鞠の志^々も如此し

一 二二 加^々の^々行^々し^々る^々事

一 三三 加^々の^々行^々し^々る^々事

以^々前^々の^々事^々も^々有^々り^々事

一 加^々の^々行^々し^々る^々事

三三 加^々の^々行^々し^々る^々事

一 加^々の^々行^々し^々る^々事

一 近比^々の^々事

と^々有^々り^々事

御^々の^々事^々も^々有^々り^々事

暮^々の^々事^々も^々有^々り^々事

子^々の^々事^々も^々有^々り^々事

而^々の^々事^々も^々有^々り^々事

と^々有^々り^々事

一 乃^々の^々事^々も^々有^々り^々事

乃^々の^々事^々も^々有^々り^々事

一 六の事 綿皮 黒皮 紫皮 並文の
皮の皮の解して賞玩りる大なるんもの
外はへる魚の皮をい解してる
とに方々まの志海ふるか
一 一 紙か法はるものもあし
是もいふたいて物紙をかは
あぬしる利

一 水とらるる可余法はるか二交り

中程の物くは又口より外におぼる者

一 海と場ありし口とあ

我れりる者小りは魚の
を儀にふはしき何方もし我もて
帰法にふ方小なりは扇紙を
真とふ

一 鞠の度 法はるか加用の時を
口とあるる水 口紙をぬはる
集らるる入るる那

一 じゆうとちて、一 鞠の庭におゆる
りし左大臣の、少しちて、三年おゆるを
證はする事

一 かのしほの鞠とちて、何
あしほの、後ちて、
あしほの、
たのむる、
ちて、
は、
鞠の

あしほの、

一 鞠の事

長一丈五尺、
ちて、

一 鞠の木は、
あしほの、
あしほの、
あしほの、
あしほの、
あしほの、
あしほの、
あしほの、

諸君へうへへてきまはるれを

一 頃のみの鞠とほのくまほりもあつた

右(端)つゝ 我受取てあつた(後)も後

しつて流るゝ左(端)つゝ

一 あつたといふうへへ下まもあつた

はるはるもあつたといふあつた事なりを

之は我は利と人あつたといふ今あつた

よしといふあつた。あつたといふあつた

とまると四五寸本とあつた。あつたといふあつた

わつたもあつたといふあつた

一 三柏子の事一ええあつたあつたあつた

れしあつたあつたあつたあつたあつた

三柏子の事一左の事一右の事一

一左の事一右の事一あつたあつたあつた

初めの時とあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

一 あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

大書しすまは左の目めしるをもんちゅう
見ましれぬるじ

一 ちり布す利の事 軒志すし見はら
まゝかま人の身ららるまゝま
らちるるらちるまゝらるまゝ
まゝらるるららるららるらら
ららるるららるららるらら
ららるるららるららるらら

一 身りるの事 ちりすまは左の目めしるをもんちゅう
見ましれぬるじ

あゝとまゝらららららららら
左のまゝらららららららら
ちりすまは左の目めしるをもんちゅう
見ましれぬるじ

右本書まは在判在る

此本石井長右衛門飛鳥井殿御
乃わらるる

蹴鞠條の大概

一庭作同懸樹事 庭廣略乃二ツ有式乃友

数ハ多クも掛ッ存ッ〜〜 庭ッ五ツ迄外ニ更共

分ッ〜〜も依ッ近代是只鞠場ハ家ホキ

カガ〜〜分ッ任ッた〜〜(カガ)庭ハ詰構

は〜〜四方成ッ本〜〜に面〜〜然ッ庭ホキ

〜〜一方廣〜〜一方〜〜庭〜〜の大概

庭〜〜の〜〜本〜〜の植ッ地形〜〜高下

右〜〜の〜〜考利意ス〜〜凡庭作ハ能程

〜〜先本〜〜可立庭作ハ調〜〜後

木は庭に植まじし庭換せし事なり

或乃懸とは榊柳鶏冠木松し本間二丈二三

尺近し可植し昔の二丈五尺の植る事し侍里云

近東世に取詮木の大小ヨリ庭の廣さんを

る相斗るふたに取く本は間二丈とし世相遠

二丈より内の略ありたり庭よりして申さ

一植根の事南向の庭つし良榊榊柳

伸鶏冠木 乾松 五分可植し自余東西小の庭

植根の事有子細只いけは八方ナリ是南向

庭のよりにも方と申す可植事奇有共難

同本四本植事アリ但は小より一亦あも植

侍り一殊軒に可植し又本の外雜木

榊柳榊木也北外中も猶有魚一庭勢より本

之間文つし一檐乃柱と本の間を幸丈三尺

より覆かす一幸里内を庭へせかすん

よきて一向略儀の可なり北沙汰し後

只いほはめし可なりさうり

一鞠合事鞠わの第一大總し初り廣は庭を

かし若らあんとおのりし若智つに

少し乃ち其のまゝと見せしめては懸出するが内鞠
めし能く練習スレバかまに一時時とらちん
をくま也凡人のみ山首めをくまはるは
を此鞠といひ申すもかまはくまのめし
中程に早らつるをまねしつるめとゆはる人
ちくくまかほいこるなる鞠もはる鞠と
身あつてまねはる有るをまね掛といふ
まねにまねしはるはまねかほいこる鞠は
まねのつるま

一 ^顔 表持事か持事けりも了はるに懸はる

くらかなるまねのれ中たをくまはる
くまはるまねはるまねはるくまはる
んあつてまねはるまねはるまねはる
へくまはるまねはるまねはるまねはる
肝心掛あつてまねはるまねはるまねはる
友右んまねはるまねはるまねはるまねはる
くまはるまねはるまねはるまねはる

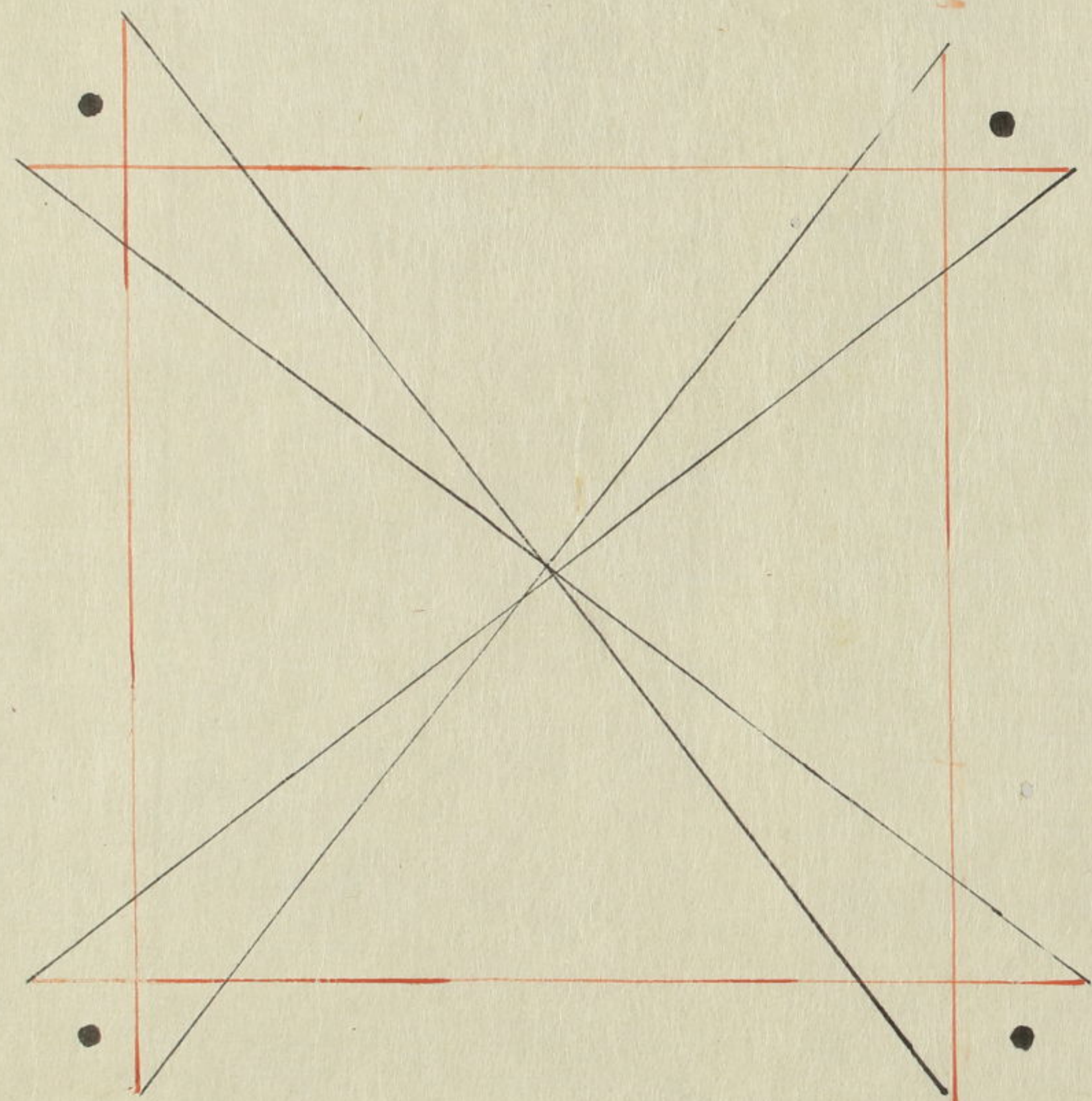
一 手持事手ぬ左右のまねはるまねはる
申しと持くまねはるまねはるまねはる
いあつてまねはるまねはるまねはる

し坐る事有る魚に詰る時庭中
半分も侍し本乃外(出)る侍魚の
時と入の本乃内(入)る侍魚の
時と入る魚に但し本乃外(出)る侍魚の
幸道(幸)に候て便(便)に候る侍魚に
つり是を法成し鞠(鞠)を拾て道(道)を
時(時)に侍(侍)し候る侍魚の
主(主)又(又)いふ侍魚に候る侍魚の
由(由)り候る侍魚の通(通)り候る侍魚
候(候)る侍魚の申(申)候る侍魚の本(本)路(路)に

帰(帰)難(難)有(有)る侍魚の大方(大方)懸(懸)の布(布)に候る侍魚
主(主)上(上)上(上)身(身)主人(主人)の侍魚に候る侍魚
候(候)る侍魚の叶(叶)候(候)る侍魚の侍魚に候る侍魚
踏(踏)躑(躑)候(候)る侍魚の侍魚に候る侍魚
一(一)着(着)座(座)事(事)別(別)表(表)子(子)細(細)る侍魚に候る侍魚
座(座)の侍魚に候る侍魚に候る侍魚に候る侍魚
本(本)乃(乃)外(外)候(候)る侍魚の侍魚に候る侍魚に候る侍魚
侍(侍)魚(魚)に候(候)る侍魚に候る侍魚に候る侍魚に候る侍魚
後(後)座(座)候(候)る侍魚に候る侍魚に候る侍魚に候る侍魚
候(候)座(座)師(師)通(通)の侍魚に候る侍魚に候る侍魚に候る侍魚
候(候)座(座)候(候)る侍魚に候る侍魚に候る侍魚に候る侍魚

乃木此由のこころを先づかきし貴人主人の
 方へは一言もなほなほとらへん氣
 ぬにきくはく再々はつて人をもつて
 辭退を命じたわいもきつと上首
 様様の出成り本行したん
 時最末の人の上首の
 侍の主人の
 御目
 若故實の者として
 是はよく鞠を
 故實の者として
 て本はすふわ
 自分の方の
 もと我より
 夕景の
 一八境事
 たし
 是
 園
 乃
 乃

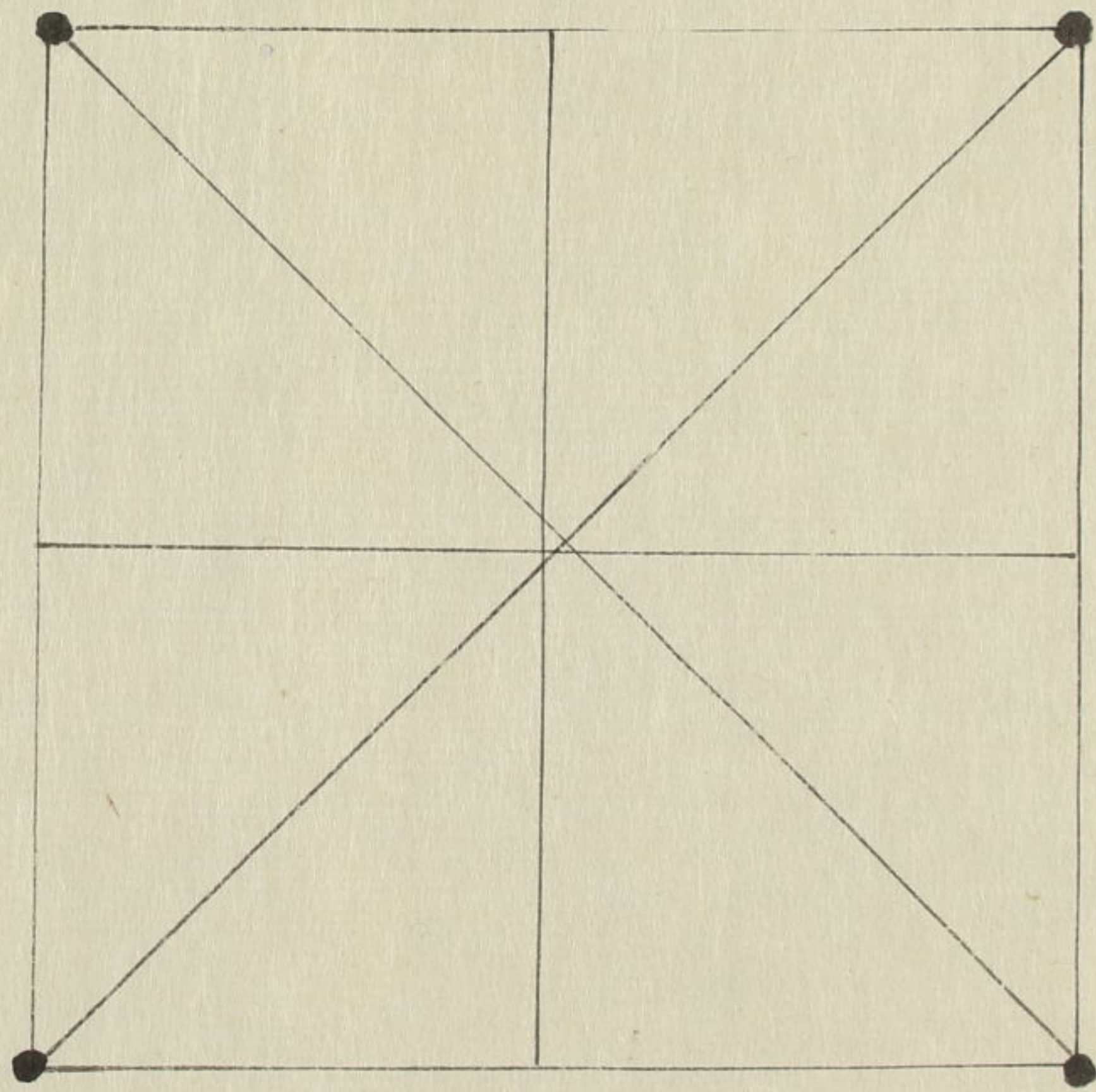
兩分圖



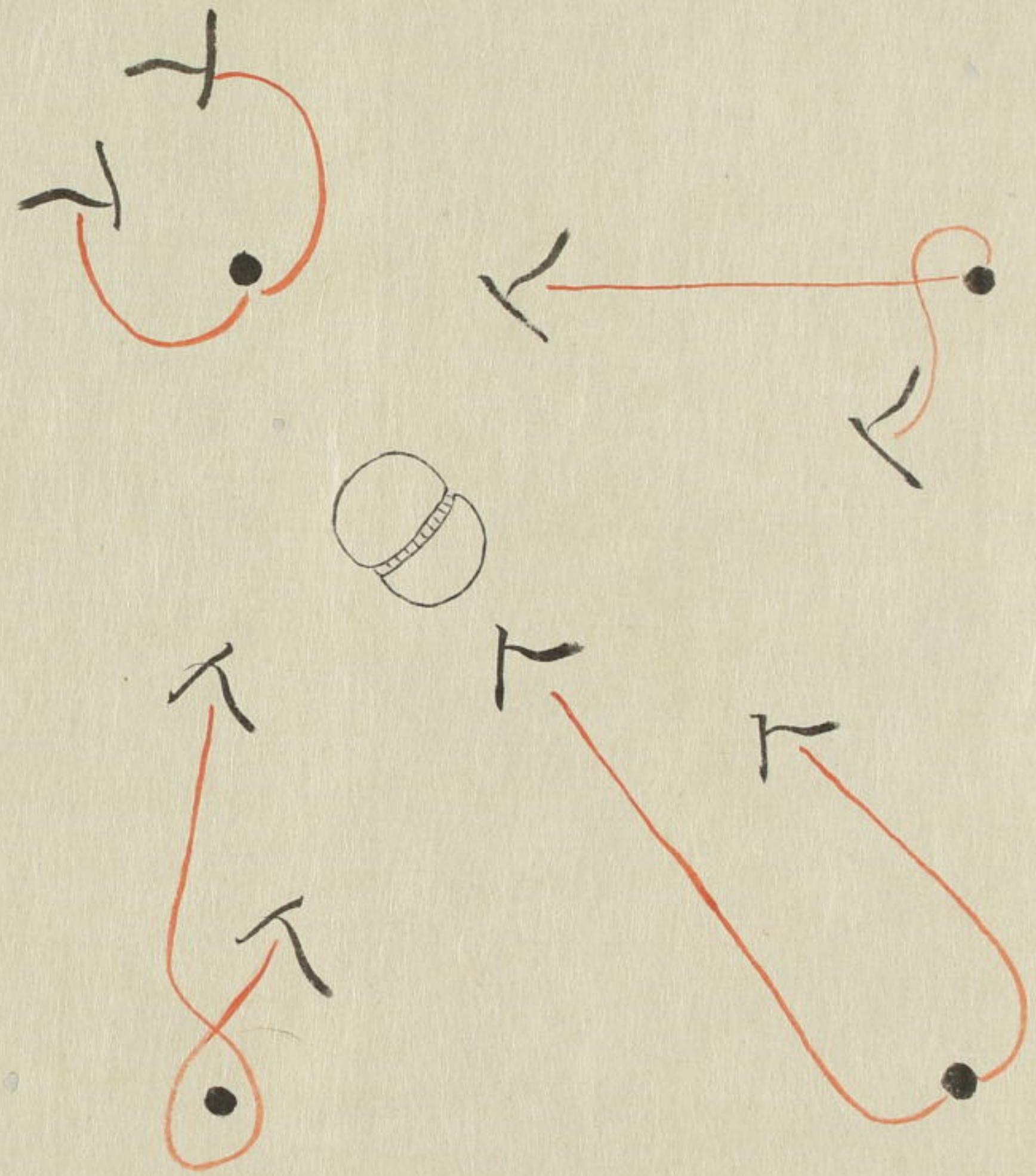
采為次分

以墨為正分

八境圖



對綫



於躡鞠者自他分を可為大徑能く可分
 別一戻有八境自有支分以圖可知也
 一座付糸の事一扇ヲ左持テ座ヨリ付貴人
 方ノ手ヲワキテ板座ニツルニ左ニ板扇ヲ
 鼻紙付上ノ命ニ違サ付のりる見とす尺がく包
 重テ免座ノ左ノ付いこの志ヲ後ホオ分也
 なるらんわいさ尺中付後ホオ分をさし
 予付此時付糸紙ノ上ニ扇ヲツル也
 免座ノ志紙付かこ用付のりツテ退付也
 尺持扇なるらん板付くとも付のり付也

ちくくくくく

一 鞠がけを本ノ座ニ休店時ハ扇ヲ取テ
持テ可ク云ク侍ノ事 貴人ノ以前モ申
遊見ある魚々々

一 貴人ノ御誥来レテ 雨ノ如ク立テ 事ヲ
礼ヲ乱ル魚々々 侍ノ事 貴人ノ御誥来レテ 雨ノ如ク立テ 事ヲ
立カハ侍ル魚々々 侍ノ事 貴人ノ御誥来レテ 雨ノ如ク立テ 事ヲ
一 是レ侍ル魚々々 侍ノ事 貴人ノ御誥来レテ 雨ノ如ク立テ 事ヲ

